

今月のことば

如来大悲の恩徳は  
身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も  
骨をくだきても謝すべし  
親鸞聖人

# 照光寺だより

発行

真宗大谷派 照光寺  
滋賀県蒲生郡日野町内池655  
電話(0748)52-2364  
http://www.shoukouji.net/

## 報恩講厳修のお知らせ

別紙でもお知らせ  
せいたしましたよ  
うに、本年の報恩  
講を、来る十一月  
二・三日の両日に  
わたり、門徒中で  
勤修いたします。  
宗祖・親鸞聖人の  
お徳を偲びながら  
の聞法のご縁で  
す。お誘いあわせ  
のうえお参りくだ  
さいますようご案  
内申しあげます。

### 報恩講日時

大連夜 十一月二日(日) 午後二時  
お初夜 十一月三日(月・祝) 午後七時半  
あさじ 十一月三日(月・祝) 午前八時  
満日中 十一月三日(月・祝) 午前十時  
法話 大阪・響命精舎主幹 林一宗 師

## 照光寺役員改選について

現在、照光寺役  
員は十二名の世話  
方で構成されてい  
ます。三年間の任  
期でいずれも今年  
十二月末で任期が  
満了します。内池  
西代表七名、その  
他地区代表五名の  
内訳で構成されて  
います。役員選出  
方法は内池西代表  
は今年二十九日  
(土)実施の投票  
による選出で、他  
の地区は推薦によ  
る選出(十一月末  
日まで)と異なっ  
ています。  
今期役員の方さ  
まには御遠忌厳修  
の大事業を始め、  
何かとお世話にな  
り厚く御礼申し上  
げます。

## 本山御正忌報恩講のお知らせ

照光寺の属する  
真宗大谷派の本  
山、京都・東本願  
寺では、宗祖・親  
鸞聖人の祥月命日  
である十一月二十  
八日を結び、毎  
年十一月二十一日  
から二十八日まで  
の七昼夜にわたり  
勤められていま  
す。  
親鸞聖人の教え  
を受け継ぐ真宗の  
各派本山でも、毎  
年報恩講が勤めら  
れていますが、親  
鸞聖人のご命日を  
新暦か旧暦か、ど  
ちらで受け止める  
かによって勤める  
期日が異なりま  
す。  
京都・東本願寺  
では旧暦の十一月  
二十八日をご命日  
としていますが、  
西本願寺では新暦  
の一月十六日をご  
命日として、毎年  
一月九日から十六  
日までの七昼夜に  
わたり勤められて  
います。



## 仏事のイロハ ～報恩講とは～

報恩講 私たち真宗大谷  
は、私た 派の本山、東本願  
ち真宗門 寺では毎年十一月  
徒にとっ 二十一日～二十八  
て最も大 日までの七昼夜に  
切で、宗 わたり、御正忌報  
祖・親鸞聖人のご 恩講が勤まり、全  
遺徳を偲び、浄土 国各地より、ご門  
真宗のみ教えを私 徒の方がたがお参  
たちにお示しくだ りになります。  
さったご恩に感謝 として、一般寺  
する法要です。 院では本山の御正  
報恩講は、親鸞 忌報恩講の前後に  
聖人の没後、門徒 それぞれの寺院に  
たちが毎月二十八 おいて報恩講が勤  
日の聖人のご命日 まります。  
に念仏の集まり また在家門徒の  
(講)を開いたの お内仏の報恩講を  
がはじまりといわ び、お敬い」と呼  
れています。 び、照光寺のご門  
その後、親鸞聖 徒さま宅にては、  
人のひ孫にあた 毎年十月から二月  
る、本願寺三代 にかけての時期  
覚如上人が、聖人 に、大窪、村井、  
の三十三回忌に法 鎌掛、松尾、内  
要の形式を 報恩 池、河原、蔵王の  
講式」とまとめ、 それぞれの地区に  
聖人の恩に報いる おいて順次勤ま  
集い(講)という り、宗祖・親鸞聖  
意味で「報恩講」 人のご遺徳を偲ば  
と名づけられまし せていただいでい  
た。 ます。

## 十一月の行事予定

- 二日(三) 廿(月・祝) 照光寺報恩講
- \*二日(日) 大連夜 午後二時
- お初夜 午後七時半
- \*三日(月・祝) あさじ 午前八時
- 満日中 午前十時
- 四日(火) 尼講例会 お浚え) 午前九時半
- 十五日(土) 大窪地区お敬い①
- 十六日(日) 大窪地区お敬い②
- 二十三日(日) 村井地区お敬い
- 十六(十七日(月・月) 照光寺役員研修旅行
- 二十二日(土) 仏婦班長会 午後八時
- 二十八日(金) お講 当番・照光寺) 午前七時半
- 二十九日(土) 村方役員選挙 午後五時～六時
- \*二十一日～二十八日
- 真宗本願 東本願寺) 御正忌報恩講

### 編集後記

十一月にり、各地の寺院へいます。みなさま  
入り、日ご 参加させていただ のお参りをお待ち  
とに秋の深 いています。 しております。  
まりが感じ 真宗門徒の  
られるよう 生活は 報  
になってき 恩講に始ま  
ています。 って報恩講  
今年もまた、報 に終わる」  
恩講の季節とな といわれて

